

# 第 66 回長野県図書館大会 第 3 分科会 報告

飯田市立川路小学校 宮澤優子

## 1、分科会概要

- ①テーマ「人類の英知の集積、図書館を活用するために ～ポプラディア出張授業の現場から」
- ②講師 株式会社ポプラ社 図書館事業局事業推進室長 飯田建 氏
- ③内容 前半：ポプラディアを使った模擬授業  
後半：模擬授業の解説及び講演

## 2、遠隔地からのインターネット中継による分科会実施

### ①経緯

講師の飯田先生に、早急に行う必要のある手術を伴った病気療養の必要性が生じ、しかし今回のご講演を何としてもご自身でという講師の熱い思いに、担当医が「直近で手術をし当日は（ポプラ社本社までの）外出許可が出せる可能性」を探ってください、今回の遠隔地からのインターネット中継による講演が実現した。

### ②事前準備

まず、東京のポプラ社と塩尻会場をどのような形でつなぐのかについてポプラ社側と協議、基本的にはインターネット電話サービス「Skype」を利用した中継とし（＝A 系統）講義で利用するインターネットサイトおよびパワーポイントデータ投影のためのセッティング（＝B 系統）およびポプラ社側と塩尻側のスタッフが常にコミュニケーションを取りながら進行するためのテキストによるやり取り（＝C 系統）を整えることを決定。さらに、それを実現するためのインターネット環境の都合で、会場をレザンホールからえんぱーくへと変更、参加者への通知を行った。

各種アカウントの取得と機材や環境的バックアップ体制を組上げたうえで、テスト中継や会場のインターネット環境の確認を実施、当日に備えた。

### ③当日準備

ポプラ社側は講師の飯田氏のほかポプラ社社員 1 名、塩尻側は司会の宮澤、えんぱーくで開催される分科会を 3 会場掛け持ちする塩尻市立図書館職員 1 名での運営。

前日が南信地区学校図書館教育研究大会であったため、当日朝から塩尻会場であるえんぱーく 3 階多目的ホールにて設営。まずはワークショップのための卓やポプラディアなどの準備を行い、続けてネット中継関連の設営を開始。ポプラ社側の準備が整ったところで Skype での通信を開始し、カメラの設置状況やプロジェクターでの投影状況などの調整が完了したところで開場（開会の 30 分前）とした。

### ③分科会本番

開会し、本日の流れを説明したところで、まずはワークショップをご一緒していただく

卓ごとの自己紹介をしていただいた。そのあと、会場に講師がいらっしゃらないこと、これからインターネット中継でのワークショップと講義をすることを説明して、Skypeの画面の投影を開始し、音声をつないだ。

ポプラ社側にも会場の音とウェブカメラによる画像は常時流れる状態でワークショップ開始。本来机間巡視をしながら飯田さんが回答状況を見たり、参加者の反応を見たり、それぞれの設問に込められた狙い通りの展開であるかの確認をするわけだが、今回はそれを宮澤が補助、インターネット中継でそのまま流してよい情報と参加者には伏せた状態で流したほうがよい情報を選別し、適宜テキストメッセージでのやり取りをしつつ進行。ワークショップは約一時間で終了し、休憩とした。休憩中、ポプラ社側からのSkypeの投影と音声はオフ、塩尻側の状況はポプラ社側へオンの状態でキープ。

後半はワークショップの解説と、講演。解説の中で大切なキーワードは、塩尻会場のホワイトボードに板書。講演の中で、ポプラディアネットの解説のためにインターネットサイトを投影する場面と、中央大学付属中学校・高等学校の図書館紹介のためにパワーポイントウィ使用する場面があり、どちらもB系統にて投影。

予定通り2時間10分のワークショップと講演を終え、短時間の質疑応答の時間を設けた後、分科会終了とした。分科会終了とともにSkypeは切断、残務についてはテキストメッセージで行った。

なお、分科会の記録は市立須坂図書館館長の文平玲子氏にお願いした。同時に主催側の記録として、ビデオ録画も行った。

#### ④所感

まず分科会の内容についてであるが、参加者の皆さんのワークショップでの積極性、解説されたたくさんの指導のコツをそれはそれは熱心にメモされる姿、今回のご病気の経験がそのまま赤裸々に語られた「調べる」ことについての飯田さんからの講演に、微動だにせず耳を傾けられる姿、それらに今回の分科会の内容が待ち望まれていたものであったことがうかがえた。「現場ですぐに役に立つもの」を持ち帰ることができる研修の価値は、大きい。

インターネット中継については初の試みであり非常に気を使ったが、大きなトラブルもなく終了した。これについては別に報告書を上げるが、準備段階からの綿密な打ち合わせとバックアップを含めたインターネット環境が整えば今後も様々な場面での利用が可能だと思われ、広い長野県においては特に、今後の講演やワークショップ等の可能性が広がったように思う。

#### ⑤その他

何よりもまず、2時間の長丁場を術後の身体で話さられた強靱さと、現場で日々実施されているからこそその安定した内容はもちろんのこと、長野県図書館大会のためにお力を

注いでくださった講師の飯田建さんに心から感謝申し上げたい。

ポプラ社側で入院中の飯田さんにかわって直前の準備をしてくださり、当日の設営から講師サポートにいたるまで非常にきめ細やかなご配慮をいただいたポプラ社の斎木小太郎さん、大変お世話になりました。

分科会3つを掛け持ちしつつ、会場担当としての機材準備から設営撤収、本番中の突発的な事案へも迅速に対処してくださった塩尻市立図書館の中澤友義さん、お疲れ様でした。

素晴らしい観察力で会場の様子を記録し、端的ながら余すところなく報告書に仕上げてくださいました市立須坂図書館の文平玲子館長、大変勉強になりました。

飯田さんを講師に招へいし、この企画を立ち上げてくださった県立長野図書館の平賀研也館長はじめ、県立長野図書館のご担当、会場である塩尻市立図書館のみなさま、ありがとうございました。

最後に、会場変更で本会場から移動を余儀なくされたなか足を運んでくださり、参加してくださった皆様、ありがとうございました。皆さんがそれぞれの現場で今回の研修で得られたものをご活用くだされば幸いです。